

こんにちは。文化財課の児玉です。暖かい日が続き、桜が見ごろを迎える季節となりました。青森市内の桜の名所と言えば、合浦公園をはじめ野木和公園、浪岡城跡公園、花岡公園などがありますが、これらのほかにも八甲田山雪中行軍遭難事件(明治35年〈1902〉1月)のことも学べる幸畑墓苑がおすすめです。

幸畑墓苑には、資料館のほか、市の史跡天然記念物に指定されている幸畑陸軍墓地及び多行松、そして様々な雪中行軍関連石碑などがあります。陸軍墓地をまっすぐ進んだ突き当たりに、大きな石碑が二つ並んでいるのですが、今回は左側にある「凍死軍人英霊碑」について紹介してみたいと思います。

この石碑は、昭和3年(1928)10月15日に建立され、「子爵 斎藤 実(旧字体:齋藤 實)」
「伯爵 東郷 平八郎」の名が刻まれており、彼らが揮毫した供養碑です。斎藤^{まこと} 実^{まこと} といえば、海軍大將を務め第30代内閣総理大臣を経験し、東郷 平八郎は明治時代の日本海軍の指揮官として日清及び日露戦争の勝利に大きく貢献した偉人です。

この供養碑の建立者は、「成田 券治」とその母「ひで(秀子)」で、彼らの名前が供養碑裏面に刻まれています。成田 券治は、七戸町で「成田旅館」を営む一方、考古学、郷土史にも造詣が深く、東北帝国大学の喜田貞吉(歴史学)との親交を重ね、青森商業学校長・地方視学官・県教育課長を務めた佐々木新七とともに発掘調査を経験し、中央の学者を招き七戸町の案内役としても重要な存在でありました。

七戸町で旅館業を営む成田 券治が、なぜ雪中行軍兵士の供養碑を建立しなければならなかったのでしょうか。成田が昭和37年にまとめた追想録によれば、どうやらイタコの口寄せがこの始まりだったようです。昭和2年9月に七戸町八ヶ田に住む巫女を訪れた時の口寄せで、遭難して亡くなった兵士たちの言葉で「我らは犬死も同然である。なぜならば、今となっては誰も参拝に来る人もいないからである。どうか日本の一番偉い人に参拝させてくれ。」と告げられ、これをきっかけに遭難兵士の供養碑を建立することになったとのこと。

そして、供養碑の揮毫については、成田旅館に宿泊滞在していた青森禅道会主の米内隆豊の力を借りて、東郷 平八郎と斎藤 実のほかに永平寺管長、総持寺管長の四人と交渉し、揮毫を受取ることができました。供養碑裏面には、揮毫紹介者 米内隆豊の名前も刻まれています。

除幕式は、昭和3年10月15日に5,000人近くの参拝者を迎えて盛大に挙行政され、当時の『東奥日報』では「幸畑の山は未曾有の人手」との見出しが掲載されました。

幸畑墓苑では、この供養碑のほかにも遭難60周年や100周年の追悼記念碑、満州74部隊やアルシャン駐屯部隊の慰霊碑などもあり、お花見と併せて石碑めぐりも楽しめます。



幸畑墓苑に建立された凍死軍人英霊碑